

令和3年度学校自己評価表

鳥取県立米子東高等学校全日制課程

学校ビジョン	未来を拓く人材の育成		
中長期目標	<p>1 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊敬を深く理解し、自分と異質のものの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。</p> <p>2 課題意識のある生徒の育成 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。</p> <p>3 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。</p>	今年度の重点目標	<p>1 主体的な学びの推進</p> <p>2 豊かな人間性の育成</p> <p>3 地域に信頼される教育の展開</p> <p>4 働き方改革の推進</p>

評価項目	具体項目	年 度 当 初			中 間 評 価	
		現状	具体目標	目標達成のための方策	経過・達成状況・改善方策	評価
1 主体的な学びの推進	アクティブ・ラーニング等による授業改善と適正な評価	ICTを活用したアクティブ・ラーニング型授業を各教科で実践するとともに、開講科目ごとのルーブリックを作成してパフォーマンス評価を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> 教員の授業スキルの向上 授業アンケート「この授業は自分にとって満足のものだった」の間に、肯定的な回答90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートを全教員が確実に実施し、授業改善を行う。 各教科ともルーブリックを作成し、パフォーマンス評価を確実に実行する。 chromebookを活用した授業展開の工夫や課題等の配信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 開講科目ごとにルーブリックを作成し、予定どおりパフォーマンス評価を行っている。 各教科ともchromebookについて、校内外での研修会に参加するとともに、研究授業を実施し授業展開の工夫を行っている。また、SHRで活用するなど、クラスの連絡や課題配信等にもchromebookを活用している。 授業アンケートについては、12月に実施する。 	B
	SSH事業による科学的探究心・情報発信力・実践力の育成	各種科学コンテスト・土曜授業等実施事業への参加など内外コンベンに積極的に打って出ている。総参加者 71件・1256人 予選を通過して上位大会へ出場した者 12件・52人	各種科学コンテスト・土曜授業等実施事業への参加など内外コンクールやコンベンへの参加者数 <ul style="list-style-type: none"> 総参加者 50件・800人以上 予選を通過して上位大会へ出場する者 10件・100人以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「打って出る」目標と研究を結びつける取り組みを継続する。 学校設定科目「課題探究基礎」「課題探究応用」「課題探究発展」によって、主体的探究活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種科学コンテスト・土曜活用事業などへ積極的に参加するように促し、科学や国際問題に関するオンライン講演会には延べ112名の生徒が参加した。 「課題探究基礎」に関しては、「課題探究基礎ノート」を用いて計画的に実施できている。 「課題探究応用」に関しては、「打って出る」目標と研究を結びつける取組により、研究の質が高まっている。 「課題探究発展」に関しては、全生徒が英語論文の作成を行った。「継続課題探究」を選択した生徒は32名（昨年11名）で、全員が授業内で発表を行った。 今年度はオンラインではなく対面式で夏季講習を実施したが、多くの生徒が積極的に受講した。（1年昨年330名⇒今年299名 2年昨年73名⇒今年92名 3年昨年308名⇒今年303名 延べ人数） 3年放課後講習を総体前から実施し、早めに受験に向けての意識付けを行った。講習や授業などを通じて個別試験対策を行い、生徒の進路実現に向けた指導体制が構築されつつある。また、小論文指導や志望理由書作成指導の研修を通じて教員の指導力の向上に取り組んだ。 	B
	進路指導の充実	国公立大学合格者269名（うち、現役合格者206名）、難関大学合格者61名となった。	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学合格者200名以上（現役合格者170名以上） 難関大学合格者70名以上 	<ul style="list-style-type: none"> 総合選抜型入試、学校推薦型選抜入試を適切に活用する。 二次試験対策の強化（授業・講習） 		B
2 豊かな人間性の育成	主体的・自律的態度の育成	環境整備委員会を中心に、掃除の徹底を行っている。 総遅刻者数は延べ287人で対前年度比19%増であった。 問題行動件数は5件であった。	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識の高揚 品格と矜持をもった振る舞い 主権者意識の高揚 TEASの推進 遅刻者数対前年比20%減 問題行動件数0件 	<ul style="list-style-type: none"> 掃除と挨拶の徹底 お掃除マイスターによる講演会、主権者教育など、各種領域教育を実施し、社会参画への態度を育成する。 遅刻確認票による遅刻指導の徹底 自転車用ヘルメットの着用を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> お掃除マイスターによる講演会をオンラインで開催したことで、環境美化に対する意識が高まり、熱心に掃除に取り組む生徒が増えてきている。 部活動に所属している生徒を中心に気持ちの良い挨拶を行うことができた。 総遅刻者数は延べ90人（9月末現在）で対前年度比3%減であった。引き続き遅刻確認票による指導を行う。 自転車用ヘルメットは1年次生は着用しているが、2・3年次生の着用率は1割程度と低い。マナーアップさわやか運動や生徒会の取組などで安全意識向上を指導する。 問題行動件数0件（9月末現在）。今後も迅速で適切な対応をしていく。 	B
	部活動の奨励	新型コロナウイルス感染症の影響で大会が中止になったり代替大会となったが、各部が活躍し、生徒相互の良い刺激となっている。	<ul style="list-style-type: none"> 学業と部活動の両立 運動部活動 県大会ベスト4以上 文化部活動 中国ブロック以上 	<ul style="list-style-type: none"> 中国大会・全国大会へ出場する部活動を増やす。 「部活躍報告」を行うことよって、賞賛する機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 団体で7位に入賞した。中国大会に出場した部活動数は20（R元）から19だが、全国大会に出場した部活動・個人は17（R元）から21に増えた。（9月末現在）（※R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの部活動で中国大会・全国大会が中止となったため、R元年度と比較。） 「部活動報告」で県大会等で上位に入賞した部活動を表彰し、本校のHPに掲載し、3年次生はSDGsについて人権教育LHRを実施した。1年次生は身近な差別について体験型ワールドカフェ方式で、2年次生は同和問題について人権教育公開LHRを実施する。 新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、台湾桃園市立陽明高級中学への訪問や受入はやむを得ず中止としたが、オンラインでの交流を12月に予定している。 グローバルリーダーズキャンパスの受講希望者は11名あり、8名が県の審査を通過した。 	A
	体験的な学びの推進	国際交流・人権教育などを通して、多面的な教育を展開しているが、追求する姿勢が足りず、妥協している生徒も多い。	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育の推進 異世代・異文化交流の推進 読書活動の充実 ボランティア活動への積極的な参加 何事にも妥協せず、理想を追求する生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 台湾桃園市立陽明高級中学との交流 海外研究機関とのオンライン交流 体験型ワールドカフェ形式の人権教育公開LHRの実施 		B
3 地域に信頼される教育の展開	P T A 活動の推進	P T A の各委員会（総務、人権教育推進、生徒育成、進路）が役員主体で活発に活動している。	保護者と教職員の連携強化による P T A 活動の更なる活性化	P T A のニーズに対応した事業内容の見直しを進める。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度は資料配布のみであった P T A 総会を対面で実施した。各委員会は委員長が主体となり、学校の担当者や意見交換しながら制限がある中でも積極的に活動を行っている。 米東だより104号、見外の教職員紹介号や「ロゴスのこころ」を予定通り発行している。 	B
	地域への発信	積極的な情報発信を行い、学校理解を進めている。 学校運営協議会を開催し、地域住民の理解と協力を得た学校運営を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な学校情報の発信による地域・保護者への学校理解の促進 地域との連携強化や学校運営協議会との適切な連携・協働による地域とともにある学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページにより積極的に学校情報を発信する。 学校運営協議会を定期的に開催し、熟議をして地域等との連携を深めた学校運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の際は積極的に取材に赴き、ホームページに掲載した。ホームページ更新回数100回（9月28日現在）で昨年度とほぼ同数であった。部活動の活躍など生徒の活動の様子を写真やコメント付きでホームページ上で発信した。 マチコミメールで臨時休業や新型コロナウイルス感染症に係る注意喚起などをこまめに保護者に配信した。 	A
4 働き方改革の推進	時間外業務時間の削減	教職員の1人あたりの時間外業務時間は令和2年度は11.7時間/月であった。	教職員の1人あたりの時間外業務時間対令和2年度比5%減	「鳥取県立米子東高等学校部活動に係る方針」を遵守する。	<ul style="list-style-type: none"> 9月末現在の教職員の時間外業務時間は平均14.0時間/月で、昨年度に比べて1.5時間/月増加した。6月以降は減少傾向にあるが、時間外業務時間が多い職員への個別指導や業務の見直しを一層進める必要がある。 「鳥取県立米子東高等学校部活動に係る方針」を遵守し、各部活動ごとの月別計画表や月別実績表を利用して、働き方改革を進めていく。 	C
	会議の精選	会議・委員会の廃止・統合など業務の効率化を進めている。	協議スキームを徹底し、会議・委員会の開催回数を削減する。	会議の回数削減等による業務の効率化を進める。	事前協議を徹底し、会議の削減及び会議時間の短縮を進めている。定例の会議を行わず、日々のコミュニケーションで対応し、業務削減を図っている分業もある。	B

評価基準 A：十分達成した B：概ね達成している C：取り組みはやや遅れている D：方策の見直しが必要